研修報告

小学生３人を、沖縄に派遣
人材育成グローアップ事業

村は人材育成を図る「ラブ地球村グローアップ事業」の一環で、普代小５年の嘉藤瑞紀さん、川向夏央さん、佐々木勇人君の３人を、７月29日から８月２日までＢ＆Ｇ「海洋体験セミナー」に派遣しました。普代とは気候や文化の違う沖縄で、３人はたくさんの貴重な経験をしました。３人の感想を紹介します。

最高の五日間！

普代小５年　嘉藤　瑞紀（みずき）さん

今回の沖縄での学習は、自分自身を変えてくれた、これまでででも最高の学習でした。それは、調べたかった事二つが楽しく学べたからです。

一つ目は沖縄のかんきょうについてです。かんきょうについては、まず海がきれいで、サンゴや生き物がたくさんいるという事です。

わたしの住んでいる村は、海があれていて、もぐっても下が見えません。でも沖縄の海は、図かんで見ただけの魚たちが、手にとるように見えるのです。生き物が好きなわたしにとってはまさに夢のような世界でした。

その魚たちを、さわったり実物を見ながらの説明を聞くのは、とても勉強になりました。他にもマングローブなどの自然の生き物たちがそこにあたり前のようにいる事に、沖縄の自然をかんじて、とても感動しました。

二つ目は、沖縄のくらしについてです。わたしは岩手県にすんでいるので、暑い沖縄のくらしのくふうを調べてみたいと思っていました。

でも調べてみると、沖縄のなやみもわかりました。水不足をかいけつするために、タンクを屋根においたり、台風にそなえて家の形を四角にしたりとたくさんのくふうがしてあることにとてもおどろきました。

さらに「エイサー」や「シーサー」などの昔からの文化や守り神のすばらしさを知ることができました。そしてわたしは、たくさんの仲間と協力しながら、最高の五日間をすごすことができました。この五日間の思い出はわたしの一生の宝物です。

わたしが沖縄で学んできたことを、もっとたくさんの人に伝えて、沖縄のすばらしさを知ってもらいたいです。そして勉強したことを生かして、一年後、りっぱな６年生になりたいです。

美ら海（ちゅうみ）水族館で記念撮影（後列右から２番目が嘉藤さん）

思い出いっぱい

普代小５年　川向　夏央（なお）さん

私は、七月二十九日から八月二日までの四泊五日、沖縄県にけんしゅうに行って来ました。海洋体験セミナーでは、他の県の人たちといっしょにたくさんの事を学んで来ました。

沖縄のホテルでルームメイトとピース（左が川向さん）

その学んだ事というのは、班の人やバディーと協力するという事です。バディーとは、セミナーで活動する時に、いっしょに行動したり活動したりする相手の人です。

そのバディーの人とカヌー体験をしました。バディーの人と協力して息を合わせる所がとてもむずかしかったです。初めはなかなか前に進めませんでした。いきおいをつけて速くオールをこぐとカヌーからおちそうになってとてもこわかったです。

↖私がセミナーで楽しかった事は二つあります。

まず一番楽しかった事は、美ら海水族館の見学です。沖縄でしか見られない魚や生き物が見れたし、私も見た事のない、じんべいザメやエイを世界一大きい水そうで見ることができてとてもおどろきました。

二番目に楽しかった事はエイサー鑑賞です。沖縄に昔から伝わっているたいこで歌に合わせてえんそうする所を見れたし、聞けたからです。

私の住んでいる地いきは、エイサーというのはないので、沖縄のエイサーを見れてとてもよかったです。

私は来年も海洋体験セミナーに参加したいし、家族のみんなで沖縄に行きたいと思いました。今年の夏休みのとてもいい思い出になりました。

びっくりの連続

普代小５年　佐々木勇人（ゆうと）君

ぼくは七月二十九日から八月二日まで沖縄へ研修に行ってきました。

七月二十八日仙台まで新かん線で行き、前はくしました。その夜は、初めて一人でねましたが、思ったよりはこわくありませんでした。

次の日、飛行機で沖縄へ旅立ちました。

沖縄では、マリンピアザオキナワで物づくり体験をしました。ぼくは、サンゴぞめＴシャツを作りました。あまりうまくはいかなかったけど楽しかったです。

沖縄二日目と三日目は、海で遊んだり、マングローブという林に行き、虫の観察をしました。

たくさんの自然にふれたり、友達と遊んだりしてとても楽しかったです。特におもしろかったのが美ら海水族館です。ジンベイザメやマンタなどの大きい生き物がいてびっくりしたし、水そうの中にジンベイザメが二ひきもいたのにはびっくりしました。

ぼくは、こんなに大きい水そうがあることが、すごいと思いました。それにマナティ館ではめずらしいマナティを見て、想像していた以上に大きくてびっくりしました。沖縄に行ってびっくりの連続でした。

沖縄に行く前に決めためあては「リーダーシップがとれるようになる」ですが、しっかり話しを聞き、メモを取り、自分で考え、決断し、今までは経験できなかった事をたくさん学ぶことができました。これからの学校生活で、自分が学んできたことをたくさん伝えていけたらいいです。

マングローブ林で活動を共にした仲間と（中央が佐々木君）

和村さんが大臣表彰に

人権擁護委員として12年間貢献

賞状を手にする和村人権擁護委員

人権擁護委員の和村淑子さん（60＝中央区）が10月1日、法務大臣表彰を受賞しました。

和村さんは、平成8年から12年間、住民の身近な相談相手として、人権相談や身の上相談を受けるなど、積極的な活動を続け人権思想の普及に貢献されたました。

「最初はこの仕事ができるか不安でしたが、ある女性から『村の女性のために頑張ってください』と言われ、その言葉が励みになりこれまで続けてきました。今後も皆さんのために頑張ります」と和村さんは語っていました。表彰式は同日、東京千代田区の法務省で行われました。

地震被害の復興にロータリー見舞金

第2520地区

見舞金を手渡す下道利幸前ガバナー(左)

岩手、宮城両県をエリアとする国際ロータリー第2520地区（西郷典安ガバナー）の下道利幸前ガバナーら4人は11月4日役場を訪れ、岩手北部地震の見舞金として村に50万円を寄贈しました。

深渡宏村長は、「今回の地震はかつてない大きさでした。くろさき荘の天井が落ちたり、黒埼灯台の敷地内にも亀裂が入ったほどでした。大切に使わせていただきます」と感謝しました。